

成果指標の設定について

2006年12月18日

本日は、重点目標に対する成果指標の確認及び上位指標の検討を行ってみます。

1

●市部会からの質問の回答を検討する

2

●重点目標に対する成果指標を確認・整理する

3

●さらに上位目標の指標について検討してみる

5つの重点目標

5つの重点目標

【重点課題①】 市民・行政の情報共有

①地域や行政に関する情報を市民間でより共有する

→行政の様々なサービスや計画情報が十分に住民に伝わっていない。行政以外にも、例えば、市内には400を超えるNPOがあるが、市民はNPOの活動についてあまり知る機会がない。また、住民側の課題も行政により認識してもらう必要がある

【重点課題②】 市民の自発的な参加と創意工夫を呼び起こす場としての協働を実現する

②市民の自発的な参加と創意工夫を呼び起こす場としての協働を実現する

→市民と行政との協働の必要性が近年求められている。結果として行政の仕事の市民への“押しつけ”となることを避け、市民の自発的な参画と創意工夫の実現の場としての協働を実現する

【重点課題③】 新・旧住民や世代間での交流の促進を図って、安心して暮らせるまちづくりを推進する

③新・旧住民や世代間での交流の促進を図って、安心して暮らせるまちづくりを推進する

→団塊の世代が退職期を迎えるなか、地域にかつてない規模の“元気な高齢者”が登場することが予見される。こうした機会を活かして、自治会を通じた世代間の交流の促進をはかり、住民が安心して暮らし、子供たちが安全な環境で育つまちづくりを推進する

【重点課題④】 身近にある公共施設や公共的な空間をより有効に活用する

④身近にある公共施設や公共的な空間をより有効に活用する

→今後、コミュニティ活動が活性化することが求められる。一方で、身近な公共施設にはどのようなものがあり、どのような活用方法があるのかが、十分に市民に共有されていない

【重点課題⑤】 地域住民同士の対話と助け合いのある地域コミュニティを形成する

⑤地域住民同士の対話と助け合いのある地域コミュニティを形成する

→子供からお年よりまでが安心して暮らすことができる地域づくりが求められるなか、地域住民同士の対話と助け合いが必要である。一方で、住民同士のプライバシーがきちんと確保された関係の構築が必要である

成果指標案

①地域や行政に関する情報を市民間でより共有する

【NPO】

- NPOによるホームページの発信率50%
- NPOのHP立上げ数200
- HPのアクセス増
- 全NPO活動を記載した印刷物(いつでも渡せる)
- NPOの存在をわかりやすく市民に知らす為一覧表を市政ニュースの中に入れる

【情報】

- 公開情報の公開速度 “発生から公開までの日数”
- 市長へのメール、FAXの増
- 行政の発信情報数 区分 a.初期計画 b.実行計画 c.実施作業
- 公開会議等の市民への連絡実績(広報とHPへの)
- 市政ニュースと共にごみ収集などの個人向けの表があるように保存版として配布する

【委員会】

- 委員会/審議会 区分別人数 ①公募委員 ②行政選択委員
- 各種委員会、全て公募(学識経験者、団体代表、市民代表)

②市民の自発的な参加と創意工夫を呼び起こす場としての協働を実現する

【協働事業】

- モデル協働事業の市民からの発案100件
- 行政予算の1/100を“協働予算事業に”
- 区分別協働事業実施数 区分 a.初期計画 b.実行計画 c.作業
- 協働事業がうまくいったと感じた人の数

【提案】

- 行政サービスに対する市民意見率⇒人口の1/3
- 市民からの提案・意見に対する回答率
- パブコメなど行政への意見をくみとってもらえたと感じる

【委員会】

- 市民公募分母を増やす
- 公募委員に応募する市民の数を増やす
- 公募委員数比率

【その他】

- まちづくり応援団5グループ立上げ
- 行政の自発的改善提案件数 & 改善効果
- 自治会活動への参画会員の30%

成果指標案

③新・旧住民や世代間での交流の促進を図って、安心して暮らせるまちづくりを推進する

【愛郷心】

- うつのみやに住み続けたいとする市民の割合を90%に
- うつのみやを“好き”と答える市民を95%に

【自治活動】

- 自治会に積極的に参加する人
- 地域パトロール経験者の増
- 町内会活動の内容評価報告によりまとめを公表
- 新しい市民団体立上げ数50(主として団塊世代)
- 生涯学習会修了者のすべてを地域活動に参加させる
- 世代間交流事業増やす
- 自治会加入率上げる

【委員会】

- 各種委員等に公募委員を多くすることは、市の発展等に関係を持つことでもあり多い方がよい

④身近にある公共施設や公共的な空間をより有効に活用する

【利用度】

- 今まで使用していなかったスペースを活用する
- 公共施設利用リピーター増
- 公共施設市民利用率
- 公共施設の利用率130%
- 公共施設利用率の数値化
- 公共施設の公表と活用状況の発表を促進する
- 公共施設の稼働率アップ

【認知度】

- 公共施設の空き情報がHPでわかる体制づくり
- “公共施設認知度クイズ”の世代別実施
- 公共施設の“認知度率”30%up
- 初めて公共施設を利用した人増

成果指標案

⑤地域住民同士の対話と助け合いのある地域コミュニティを形成する

【交流】

- 地域にふれあいがあると感じる人
- 住民交流事業四半期毎に実施
- 地域通貨実施グループ数(現在0) 5

【伝統】

- 地域の伝統行事を多く取り入れ、地域コミュニケーションを進めていくことが大切である
- 年寄りのボランティアで昔の遊び、日本古来のことなど教える機会を持つこと

【その他】

- ゴミステーションが常にキレイ
- “地域コミュニティ活性化”アイデアを市民から1000件
- 地域別事故・事件件数把握

前回のまとめ

都市基盤整備部会の検討例

目標	なしてほしい状態	成果指標	定義、出所
①宇都宮市の顔としてのJR宇都宮駅周辺の景観形成	公共交通の利用客が増え、JR宇都宮駅が安全に快適に活用されている。駅前の景観が風格を感じさせる。	JR宇都宮駅乗降客数	・JR東日本資料
		JR宇都宮駅利用客顧客満足度	・安全性、歩行者快適性、自動車快適性などについてアンケート調査で満足度を把握
		景観ガイドライン遵守建築物割合	・景観ガイドラインの作成を前提として、駅前地区における遵守している建築物割合
②車だけに頼らない交通サービスの実現	公共交通機関が良くネットワークされており、サービスも改善され、日常的に活用されている。自転車の利用環境も整っている。	公共交通機関不便地域居住率	・公共交通機関を利用して中心市街地まで30分(例)で到達できない地域に居住している人口比率
		公共交通利用者数	・公共交通(バス、鉄道等)の利用者数
		自転車利用率	・市民モニターなどへのアンケートで自転車利用度を把握
③地域のみどりや資源を活かしたまちづくりの推進	地域に緑があふれ、大谷石の個性的な建造物多く、まちに賑わいがあふれている、	緑被率	・市域面積のうち緑で覆われている地域面積率
		都心部商業売上高	・都心立地商業施設の商業販売額
		八幡山公園利用者数	・八幡山公園、宇都宮タワーの利用者数
		釜川プロムナード歩行者数	・釜川プロムナード歩行者通行量
		大谷石造建造物数	・大谷石が使われている建造物数
		大谷地域来訪者数	・大谷地域の主要施設の来訪者数合計

都市自治分野でもっとも基本的な指標は？ 何を具体的に実現したいか

目指す姿	指標(本日のディスカッション)	施策の方向
市民本位によるまちづくり		・まちづくりの担い手育成 ・まちづくり団体の活動の場の充実 ・まちづくり情報の共有化 ・まちづくり活動参加の促進 ・地域の行政拠点の機能強化 ・市政への参画の促進
都市の経営体制の強化		・効率的かつ効果的な行政の運営 ・行政の政策提案能力の向上 ・財政力の強化
相互理解の醸成		・個人の尊重 ・男女共同参画の推進 ・国際化への対応 ・こころのバリアフリー